

【担当教員名】 石井 照子	対象学年	2	対象学科	健康
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	30

<概要>

衣服は人間を包む一番近な環境であり、人間の環境への適応を容易にしている。われわれは、日頃から快適(comfort)な環境を求めており、その重要な因子のひとつが被服であるといえる。人体は限りない発熱体である。その熱を蓄積することなく放熱し、恒温を維持している。産熱と放熱のバランスを維持できるのは基本的には生理特性によるが、人間が厳しい地球環境に適応することができたのは、被服や住居とい殻をえたからである。さらに被服環境が生理的な補助手段のみならず感性の表現の役目も果たしている。人体-被服-環境の関係をとくに健康との関わりを中心に学ぶ。

<学習目標>

人間がなぜ被服を着用するようになったか。着衣の温熱的快適性が人体の恒体温維持という基本的生理特性とどのように関わっているのか。着衣の温熱特性は被服の素材、デザイン、製作の技術や着装の方法にも影響を受けるものであることを理解する。

それらが人体に対して内的・外的に障害となる場合があることについても学ぶ

変動する生活空間の環境に配慮し、機能的、安全性、ファッション性などを考えながら、適切な衣服を選択、着用し快適に過ごすにはどうしたらよいかを学ぶ。さらに障害者、高齢者の衣服について学ぶ。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法
1	衣服着用の起源		講義
2	衣服着用の目的 1、保健衛生的目的 2生活活動上目的 3、道徳審美上の目的		講義
3	温熱環境と人体生理① 体温調節、血流量など		講義
4	温熱生理と人体生理② 発汗 皮膚の働きなど		講義
5	温熱環境と被服① 温熱環境の指標と測定法 暑さ、寒さについて		講義
6	温熱環境と被服② 衣服の快適性とは		講義
7	被服の伝熱性 被服の伝熱性 各種温熱環境に適した着衣について 着衣の適用気候範囲		講義
8	衣服圧・脂肪厚について 衣服着用時に人体にかかる圧について		講義
9	被服の防護性・安全性① 各特殊環境に対応する防護服の機能、防護性について		講義
10	被服の防護性・安全性② 労働衛生保護衣		講義
11	高齢者・障害者の衣服① 生物学的側面から見た老化と衣服		講義
12	高齢者・障害者の衣服② 障害の部位を考慮した衣服		講義
13	被服が人体に与える障害について 化学的障害 物理的障害について		講義
14	資源と被服 ① 流通機構、生産など		講義
15	資源と被服 ② 資源のリサイクルについて		講義
			O.H.P V.T.R.を適宜用いる

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	衣生活の科学	大野静枝・石井照子	建帛社	平成14、2、1
参考書				
その他の資料	適宜プリント等を配布			

【評価方法】	【履修上の留意点】
○ 通常の出席状況	集中講義という特殊な授業形態のため毎回授業のあとに当該授業の内容をまとめることによって理解し確認させる。(レポートの提出) 指示に従い予習もさせる。
○ 課題によるレポート	